

# 東アジアを循環型社会に



循環資源の最適な移動も考慮に入れた東アジア循環型社会を実現することは



地球温暖化対策や資源・エネルギー問題への対応にも繋がるんじゃないかな

日本は各国の実状やニーズを把握し



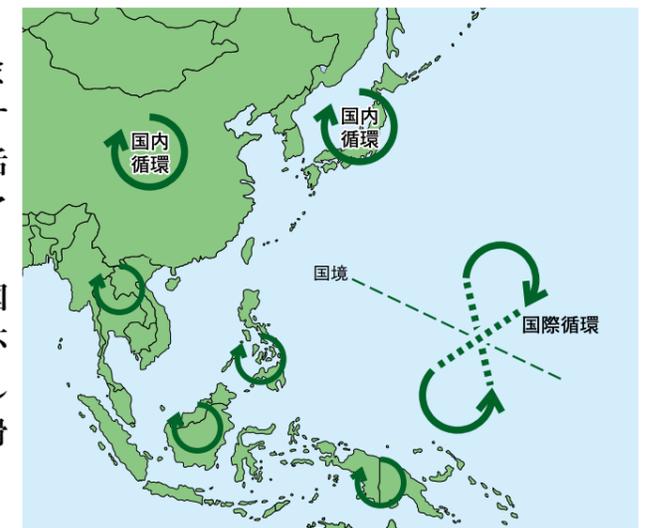
廃棄物の3Rと適正処理が実現されるよう各国の循環利用・処分の能力向上に貢献していくことが大切



今まで多くの廃棄物問題に取り組んできた日本の歴史・経験は、開発途上国での循環型社会形成にきっと役立つはずじゃ

## ◆国際的な循環型社会構築に向けての基本的な考え方

東アジアでは、各国で経済発展が著しく、それに伴い廃棄物問題も深刻化しています。また、各国と日本の相互関係性もますます強まり、循環資源の国際的な移動も活発化していることを踏まえると、東アジア全体での循環型社会を早急に構築していく必要があります。そのためには、まず各国内で循環型社会を構築し、廃棄物などの不法な輸出入を防止する取組を充実・強化します。その上で、循環資源の輸出入の円滑化を図ることが必要です。



## ◆アジアの循環型社会構築に向けた取組と協力展開

日本は、過去の廃棄物や環境問題に関する取組から得た経験を活かし、東アジアにおける循環型社会の構築に積極的に貢献しています。具体的には、3R国別計画・戦略の策定支援、政策対話、3Rに関する情報拠点・研究ネットワークの整備支援、3R・廃棄物管理に関する技術協力及びインフラ等整備支援、3R・廃棄物処理技術の国際展開といった取組を進めています。

具体例として、3R・廃棄物処理技術の国際展開として、2008年国際衛生年の開始を前に、「アジア太平洋水サミット」（2007年12月大分）等で日本の浄化槽が紹介されるなど、積極的な浄化槽技術の情報発信が行われています。

### エコ漫画家・赤星たみこの一言コラム 自然に優しい「浄化槽」

日本の川は急流で、水が逆巻き、常に酸素が供給（曝気）されています。これが微生物の働きを高め、有機物をすばやく分解します。この「川」の自然浄化システムを取り入れたのが浄化槽です。浄化槽内に微生物を定着させ、酸素をファンで送り込むこと、つまり曝気により、家庭から出る汚水を効率よく分解するのです。川の上流から取水した水を各家庭が使い、下水道で下流の污水处理場に持っていくと、川が涸れてしまいます。でも、使った場所（家庭）できれいにして川へ返せば川が涸れることもなくなりますね。

